



入社3年目の若手技術者の体験記

復建調査設計株式会社／保全構造部／上下水道課 大坪 雅



1. はじめに

月日の流れは早いもので、社会人3年目に突入しました。弊社は、広島県広島市に本社を構えており、広島での生活も3年目となりました。

私は鹿児島県出身であり、丸2年も広島で過ごせば、少しは独特なかごんま訛りが抜けるかと思いましたが、まだまだコテコテの鹿児島弁で生活をしています。

入社してから、社会人として勉強の日々を過ごしてきた3年目の未熟な技術者ですが、今回は「広島」と「鹿児島」について、そして、私が生まれ育った街「鹿児島県南さつま市」についてお話できればと思います。

2. 広島的生活について

(1) 広島の第一印象

ちょうど2年前、就職のため鹿児島から広島にキャリアケース1つを握りしめ、不安と希望が交錯した気持ちを抱きながら新幹線でやって来ました。広島駅の新幹線改札口を抜けたら、赤いカープのユニフォーム・応援グッズを持った人で溢れていました。ちょうどタイミングよく、プロ野球開幕戦の日にやってきました。

このとき、「広島＝カープ」と思ったのが第一印象でした。鹿児島には地元球団がありませんので、とても異様な光景が広がっていました。

今では、見慣れた光景になりましたが、広島駅から徒歩10分のところにマツダスタジアムがあり、ホームで試合がある時は、いつも広島駅周辺は賑わっています。

鹿児島では、巨人の試合しか映りません。時々、ホークスの試合は流れますが……。そういう環境で育った私は、あまり大きな声では言えませんが、大の巨人ファンです。

しかし、「郷に入れば郷に従え」という言葉がある様に、会社では「にわかカープファン」を演じて社会人を全うしております。

その甲斐かどうかは定かではありませんが、交友関係が広がり、カープの試合を観戦しに行く機会が増えました。球場の一体感がすごく、初めて球場に足を運んだ際はとても感動しました。

もちろん、対巨人戦の試合観戦ですけどね(笑)。

(2) 広島の観光スポット

広島には、観光スポットが沢山あります。広島といえば皆さん何を連想しますか。

日本三景のひとつ「安芸の宮島」、負の遺産である「原爆ドーム」の2つの世界遺産が有ります。

他にも、尾道や呉など皆さんが一度は耳にしたことがある観光スポットが各所にあります。

その中でも、私のおススメは宮島です。

島内には弥山(みせん)と呼ばれる山があり、山頂の展望台では、瀬戸内海を一望できます。

去年、社内旅行で「広島の魅力再発見！」というテーマで紅葉シーズンに宮島に訪れる機会がありました。

平均年齢50歳の中年世代の方達を連れ回し、弥山の登頂に成功しました。展望台では、広島在住歴20年近い方々が「来てよかった」と絶賛するほどの瀬戸内海の島々



写真-1 2019年開幕戦(対カープ)にて



写真-2 弥山山頂にて記念写真

を見渡す事の出来る絶景が広がっていました。皆さんも足を運んでみてはいかがでしょうか。

(3) 広島での生活を通して

私自身、広島で生活を始めて丸2年が経ちますが、休日はできるだけ広島の観光名所へ仲間と出向いたり、会社の若手でBBQを開催したり、のんびり広島の街を散策したり、それなりに広島を満喫しています。広島市内は、市電が走っているのでとても交通の便が良いところです。

楽しいことだけしかお伝えしていませんが、休日だけでなく、もちろん仕事も充実してます。

そういえば、誰も知り合いの居ない広島にやってきて1つだけ感じたことがあります。

それは、「人脈こそ最大の武器」ということです。

恥ずかしい話ですが、広島に来て1週間ほどホームシックになりました。自分で選んだ人生なのに、ホームシックになるとは思ってもいませんでした。毎晩のように地元に戻りたいと考えていました。今思えばしょうもないんですけどね(笑)。

1度しかない人生でどう向き合っていくかと考えた時に、人との繋がりをたくさん持って、いろんな人と交流しようと思うようになりました。最初は、少しでも気を紛らわせるための行動でしたが、今では人生を充実させる行動になってきました。

そのおかげで、今の広島での生活は社内外ともに充実していて、入社当初より格段に楽しく過ごしています。

今現在、広島で生活をしていて、「広島にやってきてよかった！」と心の底から思える日はまだまだ先の話ですが、その思える日に向かって確実に一歩ずつ歩んでいるのではないかと感じています。



写真-3 若手BBQ集合写真

3. 私の故郷 鹿児島

(1) 鹿児島県の魅力

鹿児島といえば、皆さん何を連想しますか。

焼酎・黒豚・さつまあげ・温泉・桜島、屋久島など多くの名産や観光地を想像すると思います。最近、NHK大河ドラマの篤姫や西郷どんの放送や、明治日本の産業

革命遺産として世界遺産に登録されるなど注目を集めています。

私の鹿児島おすすめは、鳥刺しです。鹿児島県民は、鶏肉を「生」の刺身で食べます。

この風習は、鹿児島内と宮崎の一部でしかみられない独特な食文化だそうです。「鳥刺し」と「焼酎」の組合せがすごくマッチしますよ。

是非、鹿児島に足を運んだ際はご賞味ください。

(2) 南さつま市について

私は大学進学までの18年間、鹿児島県南さつま市で生まれ育ちました。現在、サッカーで活躍されている大迫勇也選手も南さつま市出身です。

人口は約4万人弱で、広島市の人口の約1/50ほどの田舎町です。周囲は、山・川・海に囲まれており、のどかな光景が広がっています。

市街地から少し離れると街頭も少なく、綺麗な星空を見ることが出来ることが自慢です。

最寄りのJRまでも遠く、もちろん路面電車も通っていません。鹿児島市内への交通手段として、1時間に1本のバスが運行しています。地元の人に言ったら怒られますが、本当に田舎です。

県外の方の鹿児島へのイメージは、「火山灰」というイメージの人が多いようですが、私の住んでいる場所は、薩摩地方の南の方に位置しているため、火山灰による影響をほとんど受けません。その変わりと言っては何ですが、黄砂が降ることはよくあります(笑)。

そんな南さつま市では、農業が盛んであり、暖かい気候を活かした早期米や砂丘らっきょう、かぼちゃなどを栽培しています。また、日本三大砂丘に1つの吹上浜があり、毎年5月のGW期間中には「吹上浜砂の祭典」が催され、大勢の人で賑わっています。

鹿児島観光の際は寄り道してくださいね。

(3) 鹿児島県産ジャパニーズウイスキー

鹿児島県内には約100件以上の焼酎酒造場があり、2000種類以上の焼酎銘柄があります。

もちろん、南さつま市にも多くの酒造場があります。

その中でも、市街地より南に車で10分のところにある本防酒造津貫工場では、焼酎作りだけでなくウイスキー作りも行っています。

ちなみに、本土最南端の蒸留所です。

涼しい気候で製造されているイメージだったので、南国の地で製造されているとは思いませんでした。

飲み会では、もっぱら芋の風味が豊かな芋焼酎しか飲まない私ですが、今回の蒸留所見学で普段目にする事のない様々なウイスキーの製造段階を学び、わずかな作業の手間隙で味が変わるということが分かりました。ウイスキー作りはとてつとて繊細で奥が深いものだと感心し

ました。

近年、ウイスキーブームということもあり、お酒の場で、「芋焼酎が好き！」と言うより「ハイボールが好き！」と言ったほうが、女性ウケがいいのは許せませんが・・・。

本防酒造津貫工場では、近隣にある蔵田山（標高475m）の湧水（取水可能量900t/日）を利用して、ウイスキー・焼酎・地酒の全製造を行っているそうです。

湧水の水温は、年間を通じて18～19℃と安定しており、製造における過程で、温度管理やしやすいたのことでした。お酒作りで欠かせない水は、お酒の品質を決める大きな役割を担っています。

お酒を飲む際に、「このお酒の製法は？原材料は？」ということにはあまりなりません・・・少しでも原材料などを気にして飲むと、いつもと違ったお酒の楽しみ方ができるのではないのでしょうか。

あまり気にしすぎると、変人なので気を付けてくださいね。



写真-4 蒸留釜（ポットスチル）

（4）帰省の楽しみ

私自身、鹿児島に帰省する度にとっても楽しみにしていることがあります。

それは、75歳の祖母に会える事です。

両親が共働きだったということもあり、幼少期から私の面倒を見てくれました。

祖母は非常に趣味が多彩であり、ガーデニングや農業、旅行等をして老後を生き活きと過ごしています。

最近は大ゴルフに熱中しているようで、毎朝6時頃から大ゴルフに行く準備をしています。

帰省の際は、準備している物音で目が覚めます。毎日8時起きの際には、とても目覚めの悪い朝です。(笑)

大ゴルフに熱中しているかと思ったら、ゴルフセットも所持しており、ゴルフの打ちっ放しも始めるそうです。ますます元気になっているような・・・。

話は変わりますが、昨年2月の誕生日に料理上手の祖母に、加山雄三さんの「君といつまでも」の歌と共に、切れ味抜群の包丁をプレゼントしました。

私の音痴な歌声には驚いていましたが、包丁はとても喜んでいました。

しかし翌日、プレゼントした包丁は箱に入ったままお

仏壇の前に置かれていました。

事情を祖母に聞くと、使うときだけ箱から取り出し、使い終わったらお仏壇の前に戻しているそうです。

今では、「何でも切れる！」と言って、その包丁だけを使い込んでおり、刃が少し欠けています(笑)。

そんな祖母ですが、私の中では、かけがえのない存在です。直近の私の夢は、最近購入した車（ナンバーは祖母の誕生日）に祖母を乗せてドライブに行くことです。

今年のお盆の時に、ようやく夢が叶えられそうです。

祖母の夢は、孫の結婚相手が見たいらしいのですが、それはもう少し待ってくださいね。

ただただ、祖母の紹介になってしまいましたが、ご愛嬌ということで・・・。

小さなことかもしれませんが、元気に歩けるうちに少しでも恩返しができるかなと思っています。

ばーば！いつまでも元気でね！！



写真-5 ばーばと記念撮影（お正月）

4. さいごに

紆余曲折しながらではありますが、私自身が体験したことや、広島と鹿児島の魅力、そして祖母への想いについてお伝えできたのではないかと思います。

（内容が私的で申し訳ございません・・・。）

しかし、今回の寄稿をきっかけに、5年後10年後の協会誌にまた寄稿できることを楽しみに、今後も「自分らしさ」持ちながら社会貢献できればと思います。

もちろん、次回は技術面でしっかりと書きます(笑)。

また、近い将来の協会誌でお会いしましょう。

最後まで読んでいただき、あいごとさげました！